



## コーリング サーチ スペースの設定

---

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。

## コーリング サーチ スペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリング サーチ スペースが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のコーリング サーチ スペースを見つけることができます。コーリング サーチ スペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、コーリング サーチ スペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、コーリング サーチ スペースの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Route Plan > Class of Control > Calling Search Space の順に選択します。

Find and List Calling Search Spaces ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているコーリング サーチ スペースをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたコーリング サーチ スペースのリストが、次の項目別に表示されます。

- CSS name (CSS 名)
- Description (説明)



ヒント

検索結果内でコーリング サーチ スペースを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Calling Search Spaces ウィンドウから複数のコーリング サーチ スペースを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコーリング サーチ スペースを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するコーリング サーチ スペースをクリックします。

選択したコーリング サーチ スペースがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.43-7 の「関連項目」を参照してください。

## コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のコーリング サーチ スペースをコピーするには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけます (P.43-2 の「コーリング サーチ スペースの検索」を参照)。コピーするコーリング サーチ スペースの横にある **Copy** ボタンをクリックします。ウィンドウに、コピーしたコーリング サーチ スペースが表示されます。Calling Search Space Name フィールドで名前を変更し、**ステップ 3** に進みます。
- コーリング サーチ スペースを追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。



(注) 他のコーリング サーチ スペースを追加するには、**Add New** をクリックして、**ステップ 3** からの手順を繰り返します。

- 既存のコーリング サーチ スペースを更新するには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけて (P.43-2 の「コーリング サーチ スペースの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 43-1 を参照)。

**ステップ 4** **Save** をクリックします。

#### 追加情報

P.43-7 の「関連項目」を参照してください。

## コーリング サーチ スペースの設定値

表 43-1 では、コーリング サーチ スペースの設定値について説明します。

表 43-1 コーリング サーチ スペースの設定値

フィールド	説明
<b>コーリング サーチ スペース情報</b>	
Name	<p>名前を Calling Search Space Name フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリング サーチ スペース名が、システムに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) コーリング サーチ スペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリング サーチ スペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetroCS は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のコーリング サーチ スペースとして特定できます。</p>
Description	<p>Description フィールドに説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。</p>
<b>このコーリング サーチ スペースのルートパーティション</b>	
Available Partitions	<p>Available Partitions リスト ボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを Selected Partitions リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、<b>Shift</b> キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、<b>Control (Ctrl)</b> キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 43-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
Selected Partitions (Ordered by highest priority)	<p>パーティションの優先順位を変更するには、Selected Partitions リスト ボックス内のパーティション名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。</p>

表 43-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 43-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

#### 追加情報

P.43-7 の「関連項目」を参照してください。

## コーリング サーチ スペースの削除

コーリング サーチ スペースを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス、回線 (DN)、変換パターンなどの項目が使用しているコーリング サーチ スペースは、削除できません。コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、変換パターンなどの項目を検索するには、Calling Search Space Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用中のコーリング サーチ スペースを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用中のコーリング サーチ スペースを削除する前に、次の作業の一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンすべてに、別のコーリング サーチ スペースを割り当てる。P.49-2 の「[電話番号の設定の概要](#)」および P.46-4 の「[変換パターンの設定](#)」を参照してください。
- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンを削除する。P.49-6 の「[電話機からの電話番号の削除](#)」および P.46-10 の「[変換パターンの削除](#)」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリング サーチ スペースを見つけます。P.43-2 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するコーリング サーチ スペースのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** コーリング サーチ スペースを削除するには、**OK** をクリックします。削除を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



#### 注意

コーリング サーチ スペースを削除するときは、削除するコーリング サーチ スペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリング サーチ スペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリング サーチ スペースを作成し直す必要があります。



#### ヒント

コーリング サーチ スペースの削除は、削除するコーリング サーチ スペースを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

P.43-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.43-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定 \(P.43-3\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.43-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.43-6\)](#)

■ 関連項目